

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年10月24日(金) 10:00～12:00
- 3 開催場所 関特別支援学校 大会議室  
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者 会長 水野 友有 (中部学院大学人間福祉学部人間福祉科准教授)  
委員 高木 哲 (岐阜県立ひまわりの丘第一学園 次長)  
吉田 俊一 (Man to ManPasso 株式会社パッソ岐阜校マネージャー) →欠席  
  
澤井 基光 (岐阜県民生委員児童委員協議会会長) →欠席  
清水 恵子 (各務原市福祉の里所長)  
増田 裕恵 (PTA代表)  
森藤 由幸 (関市民生委員・地域住民代表)  
吉田 純也 (株式会社Fデザイナーズ代表取締役) →欠席  
  
学 校 側 渡辺 政幸 (校長)  
川上 悦子 (事務部長)  
三宅 千絵 (教頭)  
河田 恭子 (小・中学部主事)  
森 雅明 (高等部主事)  
藤井 大悟 (教務主任)

### 5 会議の概要(協議事項)

- ・校長より
- ・各部の運営、学校課題説明
- ・意見交換
- ・委員長挨拶

#### (1) 委員より意見・質問等について

意見1: 授業の様子を見て、教材等の準備がよくなされており児童生徒一人一人にあった授業がなされていると感じた。

この学校の強みは、校舎・グラウンド・周囲の学校(大学・高校・特別支援学校)

と連携がとりやすいという「環境」であるといえる。

今後さらに児童生徒数が減少するということだが、費用対効果を考えると中濃特別支援学校との統合という方向になるのではないか。先生方の専門性を生かした対応がなされるとよい。（複数）

ヤングケアラーの問題が話題になることがある。きょうだい児への支援も考えてもらえるとうい。

意見2：中濃特別支援学校との統合は他の保護者からも賛成だと聞いている。大学との協働学習が継続して取り組まれていることがよい。さんざし祭の時に中部学院大学のたのしみん祭にも行ったところ、セラピー犬と触れ合えるコーナーがあり、とても癒されてよい経験となった。学校でもそのような機会があるとよい。

意見3：校舎の活用方法として、美術展等の開催を検討してはどうか。

学校は福祉避難所として指定されているか。

→関市と提携しており、関市からの依頼を受けて福祉避難所を開設することになっている。対象は、当校の在校生と卒業生、その家族である。

意見4：先生方が児童生徒の障がいの特性や身体状況をふまえて支援していることがよかった。児童生徒数が減少する中、部を越えて集団での活動を保障する取組がなされていてよかった。（複数）

意見5：セラピー犬とのふれあいは、普段でも大学で行っているの、児童生徒が大学に行って体験するというのも可能かもしれない。

## （2）委員長あいさつ

さんざし祭では中部学院大学との協働学習の取組のよい成果が表れていた。このエリアの教育が変わりつつあるところである。そこには関特別支援学校の今後が大きく関わってくる。中部学院大学との協働学習は当たり前になってきた。この地域は福祉のパワースポットともいえる。この地域の学校同士のつながり、点のつながりを面にしていけるとよいのではないか。

## 6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、前期の各部の取組についての説明と授業参観を行い、児童生徒数減等の課題解決に向けた授業や行事の取組についておおむねよい評価を得た。また、学校課題についても詳しく説明を行い、今後想定されるさらなる児童生徒数減少に対してどのような学校のあり方が考えられるのか、職員の専門性の担保と働き方改革、児童生徒の障がいの重度・重複・重症化への対応について意見を聞いた。参加した委員からは、当校がある地域の強みを生かした学校のあり方を考えていくことが大切等の意見が出された。

児童生徒数が減少し職員数も減少している中で、どのような教育活動を展開していくかを考えるのと同時に、今後の当校のあり方を地域の方々と共に学校全体で考えていくことが必要である。